



理振協会会報

編集：(公社)日本理科教育振興協会 広報委員会
制作：株式会社 太洋堂



公益社団法人 日本理科教育振興協会
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28
TEL: 03-3294-0715 FAX: 03-3294-0716
URL: <https://www.japse.or.jp>

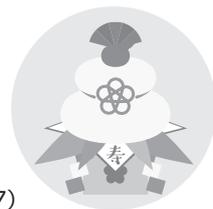
CONTENTS

■ 新年のごあいさつ (p1)

- 令和8年度 政府予算案が発表されました (p5)
- 全小理全国大会を終えて (p5)
- 第13回科学の甲子園ジュニア全国大会が
開催されました (p5)

■ 令和8年度 理科教育予算増に向けた活動 (p6)

- 令和7年度 理科教育設備整備費等
補助金事業・台帳説明会開催 (p6)
- 令和7年度 震災復興教育支援事業 (p7)
- 安心安全ドキュメント活用パンフレット (p7)



謹賀新年

令和8年年始のご挨拶

公益社団法人 日本理科教育振興協会
会長 大久保 昇



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は当協会の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年2025年は、ノーベル賞において、生理学・医学賞と化学賞の二部門で日本人研究者が受賞するという快挙が達成され、日本にとって誠に意義深い一年となりました。

坂口博士は、免疫を担う細胞があれば、逆に免疫を抑制する細胞もあるのではないかと、制御性T細胞の発見によりノーベル生理学・医学賞を受賞されました。また、北川博士は、金属イオンと有機分子を組み合わせ、無限に拡張可能な3次元の多孔質構造の研究によりノーベル化学賞を受賞され、物質科学の新たな可能性を切り拓かれました。

お二人に共通するのは、今までの常識への懐疑と「自分の目で確かめる姿勢」、多様で自由な発想から「面白い」「大事だ」と思ったことを地味なことでも続けざる継続力です。

北川博士の講演では、細菌学者パスツールの「幸運は準備された心の中に宿る」という言葉を引用し、小さい時から触れてきたことが血や肉となる。今を大切に」と語られたそうです。

未来を担う子どもたちが科学に興味を持ち、好奇心を育み、創造的な思考力を養うことが、次なるイノベーションの礎となるのです。これは、研究だけでなく、企業の経営や意思決定にも通じる普遍的示唆だと思われます。

本年も引き続き、理科教育の振興を通じて、こうした未来の科学者を育てる環境づくりに尽力してまいります。理科観察実験機器の開発・普及、教員支援、理科機器の品質向上など、教育現場のニーズに応える取り組みを一層強化し、全国の理科教育団体・機関との連携を更に深めてまいります。

全国すべての自治体と学校の児童生徒たちが、よりよい環境で、できるだけ多くの観察実験が体験できるよう、本年も引き続き、国庫補助金を活用した理科観察実験機器の整備充実を推進いたします。残念ながら全国にまだ多く残る国庫補助の活用ができていない自治体や学校に対しての国庫補助事業エントリーのための説明会等の支援も、いくつかの新たな試みを拡大して実施してまいります。

一方、実験観察に手間がかかりにくい状況をサポートするため、観察実験機器を持ち込み、楽しい理科観察実験を児童たちに体験していただく被災地復興支援事業では、能登半島地区・福島県原発避難帰還地区等を対象に、継続して理科観察実験授業を実施させていただきます。また理系人材を育み増やすための事業、特に日本における女性理系人材の少なさを打開する活動にも注力したいと考えております。

本年も、理科教育のさらなる発展と、科学技術立国としての日本の未来を支える人材育成に向けて、取り組んでまいります。皆様におかれましても、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

謹賀新年

副会長 中村 友香

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、本協会の事業へ大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年の干支は午（うま）年です。馬が大を蹴って力強く疾走し、障害を軽々と飛び越える「飛躍」の姿は、技術革新が加速する現代において、理科教育が目指すべき理想像です。この午年の勢いそのままに、力強く理科教育を進展させていく所存です。

昨年は、日本初の女性首相が誕生するという歴史的な出来事もありました。これは、女性が社会のあらゆる分野でリーダーシップを発揮する時代の本格化を示唆しています。また、大阪大学特任教授の坂口志文氏がノーベル生理学・医学賞を、京都大学特別教授の北川進氏がノーベル化学賞を、それぞれ共同研究者とともに受賞された快挙に日本中が湧きました。科学の発展には、ジェンダーやバックグラウンドにとらわれない多種多様な視点と才能が不可欠です。本協会は、この時代の趨勢を追い風に、未来の科学技術を担う「理系女子（リケジョ）」を含む全ての子どもたちが能力を開花できるよう、学習環境の整備と支援に一層力を入れて参ります。

本年も、皆様の変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



副会長 小林 啓介

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、旧年中の理振協会の活動への温かいご理解と多大なるご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

2025年は学校教育の領域においても、GIGAスクール端末の定着が進む中で、「AIを教育にどう活かすか」という課題が現実的な検討事項となった一年でした。学びをより深く実現するための強力なツールとして、生成AIへの期待が高まっています。このデジタル技術の進展を、未来の科学教育にとっての大きな進化の可能性として捉えています。

しかし同時に、私たちは、小学校で自然の不思議に触れ、中学校で科学の基礎を築き、高等学校では実験とデジタルを本格的に融合させるこの大切な時期において、「リアルな実験体験」が持つ重要性を深く認識しております。五感で現象を体感し、予期せぬ結果から考察するという生きた体験は、子どもたちの科学的な理解の土台であり、知的好奇心の源泉です。

会員の皆様、学校でご指導にあられる先生方と手を携え、子どもたちの成長を支えるパートナーとして、共に全力を尽くす所存でございます。

新しい一年が、皆様にとって実り多き輝かしいものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



副会長 西松 正文

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は大阪・関西万博が開催され、「世界は多様でありながらも一つ」という理念が、あの大きな大屋根リングの下で見事に結実し、会期中、多くの方々に夢と感動を届けてくれました。私自身も何度も会場に足を運び、世界各国の文化や科学に触れるとともに、日本の文化や技術力の高さを世界へ発信する機会となったのではないかと感じております。また、日本の科学力を示す出来事として、昨年はノーベル賞をお二人の先生が受賞されました。21世紀以降、自然科学分野の受賞数は米国に次ぐ第2位であり、近隣諸国と比べても、我が国の基礎科学の底力を示すものと言えるでしょう。一方で、近年は日本発の論文の引用数の低下や、基礎研究費の減少が課題となっています。資源に乏しい日本がこれからも成長していくためには、科学技術の力が欠かせません。とりわけ、その土台を支えるのが理科教育であることは言うまでもありません。

理科は、実験・観察を通じて、主体的な問題発見と課題解決に取り組み、探究していく姿勢を育む教科です。理科の「見方・考え方」をしっかりとし身につけ、子どもたちがこれからの社会を力強く生き抜いていけるよう、私たちは環境づくりを進めてまいります。

理振協会は、「理科の授業は理科室で！」をスローガンに、実験・観察を重視し、科学本来の面白さや楽しさを十分に体験できる環境づくりを応援しています。本年も引き続き、理科室の充実や予算拡充に向けた要望活動に力を尽くしてまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



副会長 藤原 憲二

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、教育現場におけるICT活用とAI技術の導入が加速し、個別最適化学習やデジタル教材の普及が進む一方で、子どもたちが「自ら考え、試す」体験の価値が改めて見直された一年でした。当社は、理科教育を支える企業として、実験器具の高度化とデジタルソリューションの融合を推進し、全国の学校や教育機関に新しい学びの環境を提供してまいりました。

また、鳥津製作所グループとして「科学技術で社会に貢献する」という理念のもと、次世代育成に向けた取り組みを強化しました。「鳥津ぶんせき体験スクール」を通じた科学体験の提供や、大学との連携による博士人材育成など、未来を担う人材育成に注力しています。

2026年は午年。力強く前進する象徴にふさわしく、当社も変化を恐れず挑戦を続け、理科教育の新たな価値を創造してまいります。実験体験とICTの融合をさらに深化させ、子どもたちが科学の面白さを実感できる環境づくりに全力を尽くします。

本年も皆様とともに、未来を担う人材育成に貢献し、科学技術を通じて社会に価値を届けてまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



謹 賀 新 年

文部科学省初等中等教育局教育課程課長 武藤 久慶

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、子供たちや教師が観察、実験で活用する優れた理科教材を開発するなど、日頃から理科教育の充実・発展に多大なる御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

現在、文部科学省では学習指導要領の改訂に向けて教科等毎にワーキンググループを設置し検討を行っております。

理科ワーキンググループでは、将来予想される理系人材の不足、生成AIの発展・普及等により、理数リテラシーが国民必須の素養となっており、理数リテラシーは世界トップクラスを維持している一方で、理科への興味・関心が低く、社会や職業選択とつながっていないこと等を踏まえ、理科教育の充実に向けた検討が行われています。

その中で、観察・実験や科学的な探究学習の一層充実や、基礎的な概念の習得に資するため、必要となる器具や機器の整備・更新、デジタルデバイス・教材の一層の活用についても、検討される予定です。文部科学省としては、これらの検討を進めるとともに、本年も、観察、実験活動に必要な理科設備整備を支援するとともに、デジタル等成長分野を支える人材育成を推進する高等学校における環境整備の支援など、子供たちの資質・能力を育むための施策を講じてまいります。引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、貴協会の更なる御発展と、皆様の一層の御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。



者のうち、理工系入学者は17%にとどまっております。OECD諸国の平均値よりも大幅に低いこと、女性入学者に限って見るとOECD諸国の中で低位であることがOECDの調査(2019)の結果として示されています。理数系人材の育成は、我が国における課題の一つであり、初等中等段階から理科教育を一層充実することは大変重要だと考えます。

また、文部科学省では令和7年4月、現行学習指導要領で新設された教科「理数」について、全国各地における実践を『教科「理数」の取組事例集』としてWebページで公開しました。「理数」の学びの一層の充実を期待しています。理科や理数における探究的な学習において、観察、実験は重要です。貴協会には引き続きの御支援、御協力をお願いいたします。

最後に、貴協会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 小林 一人

新年、明けましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、理数教育の充実・発展のためにご尽力くださり、誠にありがとうございます。

文部科学省では昨年の全国学力・学習状況調査より中学校理科の調査において、CBTを導入しました。調査結果の分析においてはIRTが活用されています。IRTは、単に「何問正解したか」ではなく、「どのような問題に正解したか」に着目し、問題の難しさや特性を踏まえて学力を捉える考え方です。異なる問題に取り組んだ場合でも、生徒一人一人の学びの到達度を、共通の尺度で把握することが可能となりました。

理科においては、知識・技能の定着に加え、課題を見だし、探究し、振り返る学習の過程が学力と深く関係していることが、こうした分析からも示されています。調査結果は、子供たちの学びを一面的に評価するためのものではなく、授業改善や学習の質の向上につなげるための重要な手がかりです。

本年も、日本理科教育振興協会の皆様とともに、理数教育の充実を図り、子供たちの科学的に探究する力の育成に取り組んでまいりたいと存じます。貴協会の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。



文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃より理科教育の充実と発展のために御尽力いただき、心より御礼申し上げます。

昨年の理科や科学に関するトピックを振り返ってみると、2025年のノーベル賞は坂口志文・大阪大学特任教授に生理学・医学賞が、北川進・京都大学特別教授に化学賞が授与されました。日本人が2人同時に受賞するのは10年ぶりの快挙となる嬉しい出来事でした。

また、全国学力・学習状況調査の教科調査に初めてCBT(Computer-based Testing)を導入し、中学校理科はオンライン方式で実施されました。例えば、観察、実験の過程が動画で示されるなど、CBTの利点を生かした問題が出題されました。なお、令和9年度からは小学校調査、中学校調査ともに、CBTに全面移行する予定となっています。

さらに、令和6年12月の文部科学大臣の諮問を受けて、次期学習指導要領の改訂に向けて、1月から教育課程企画特別部会において審議がスタートし、9月には「論点整理」をまとめました。これを受けて現在、「理科ワーキンググループ」が開催されているところで、例えば、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方として、中核的な概念等を活用した一層の構造化・表形式化・デジタル化などが検討されています。今後の審議の状況に注視していただきたいと思います。

貴協会には、引き続きの御支援・御協力をお願い申し上げますとともに、益々の御発展を祈念いたします。



文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 有本 淳

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、平素より理科教育の充実のためにご尽力いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

令和7年7月に、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。理科における成果としては、「花のつくりや受粉についての知識が身に付いていること」などが挙げられています。一方、課題としては、「既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること」などが挙げられています。

また、改善の方向性としては、「差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見出すことができるようにすること」や「学習したことを、自然の事物・現象に当てはめて捉え直すことができるようにする」などが示されています。

これらの改善の方向性については、目の前の児童の実態を的確に把握し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、デジタル学習基盤の活用を通して行うことが大切です。そして、授業改善の一層の充実を図るため、貴協会には引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展を祈念いたします。



文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 真井 克子

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、平素より理科教育の充実のためにご尽力をいただき誠にありがとうございます。

さて昨年度、様々な場所でお話した内容のうち、印象深く感じていただいた一つが、我が国の理数系人材の育成のことです。例えば、我が国の大学に入学す



謹 賀 新 年

一般社団法人日本理科教育学会 会長 和田 一郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、日本理科教育振興協会の皆様からの多大なるご支援・ご協力のもと、第75回全国大会（富山大会）を無事に開催することができました。ここに改めて深甚なる感謝の意を表します。さて、次期学習指導要領の検討が進められる中、質の高い探究的な学びの確立に向けた議論が各方面で高まりを見せております。理科教育においても、科学的に探究する力の育成を一層重視し、そのための学習活動の在り方に関する議論が進むことが予想されます。児童生徒の主体的な探究を支える観察・実験機器の充実は、喫緊の課題であり、本学会としても、会員の研究活動を促進する施策をさらに強化していきたいと存じます。本年は、8月22日（土）、23日（日）に鹿児島大学にて全国大会を開催するとともに、3月20日（金）にはオンライン全国大会を実施いたします。日本理科教育振興協会の皆様には、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、貴会の一層のご発展を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



日本理化学協会 会長 上村 礼子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、岩手県のアイーナ（いわて県民情報交流センター）を会場に、全国理科教育大会・第96回日本理化学協会総会を開催いたしました。全国からの350名を超える関係者が参加し、8月7日（木）から9日（土）までの日程で記念講演、意見提示と研究協議、理科教育実践の研究発表、そして、科学の広場などが展開されました。大会へのご協力、誠に感謝申し上げます。



さて、京都大学の北川進特別教授が『研究成果が社会に実装されるには25年かかる』と語られるように、未来を担う科学者の育成は長期的な視野が不可欠です。その基盤となるのが理科教育です。すべての生徒が自然の事物・現象を科学的に捉える見方・考え方を身に付け、主体的に探究しようとする態度を育成することは、我が国が科学技術立国として発展し続けるために欠かせません。今後、一層協会活動を充実させ、全国の先生方をご支援したいと考えております。

8月4日（火）から6日（木）の日程で新潟県の三条市立大学において全国理科教育大会・第97回日本理化学協会総会を開催する予定です。引き続き、ご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、理振協会及び会員の皆様方の益々のご発展を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

全国中学校理科教育研究会 会長 和田 栄治

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、札幌市教育文化会館会場を中心に全中理北海道大会を開催することができました。ご多用の中、大久保昇会長をはじめ、公益社団法人日本理科教育振興協会の皆様にご参加いただくとともに、開発教材コンテスト等、大会開催にあたり、多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。



さて、現在、次期学習指導要領の改訂に向けて検討が進められています。生成AIなどの新しい技術が次々と実装されるなど、社会の急激な変化を踏まえ、中学校の教育内容も大きな変化があるようです。全中理は、全国の研究成果の共有と連携を基盤に活動を続け、子供たちが新たな課題を捉えて科学的に考え、未来社会を主体的に担う力を育んでいけるよう、今年も力を尽くして参ります。

本年も引き続き、ご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、貴協会のますますの発展と会員の皆様の一層のご活躍を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

全国小学校理科研究協議会 会長 林 禎久

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、岡谷鋼機名古屋公会堂、並びに名古屋市立なごや小学校、瑞穂小学校、船方小学校を会場に全国小学校理科教育研究会研究大会愛知大会を開催しました。大久保会長をはじめ、公益社団法人日本理科教育振興協会の皆様にご御参会いただきました。また、開発教材コンテスト等、大会開催に多くの御支援をいただきましたことに感謝申し上げます。



愛知大会では研究主題「問題解決の道筋を構想し、自然の事物・現象をより深く理解する子どもの育成」と設定し、基調提案のもと3つの小学校の会場で、何をするのか、何を育てたいのかを大切に問題解決を基軸とした学びと、理科だからこそ味わえる幸福感を大切に子ども中心の学びについて、授業公開及び授業分科会を通じて参会の皆様と深めることができました。全国から参会の先生方が本大会の成果を持ち帰り、理科教育の研究の発展と振興を推進する一助となりましたら幸いです。

本年も、引き続きの御支援、御協力をお願い申し上げますとともに、貴会ならびに会員の皆様のご発展を祈念申し上げます。

令和8年度政府予算案が発表されました

■理科教育設備整備費等補助金（理振予算）・・・17.16億円（令和7年度予算 17.16億円）

■理科教育における観察実験支援事業・・・・・・・・・・ 1.95億円（令和7年度予算 1.96億円）

・小中学校における理科の観察・実験を支援する補助員を配置

（観察実験アシスタント = Preparation Assistant for Scientific Experiments and Observations）・・・補助率1/3

関連予算

スーパーサイエンスハイスクール支援事業・・・・・・ 22.9億円（22.9億円）

全小理全国大会を終えて

全国小学校理科研究協議会 会長 林 禎久

令和7年11月20日（木）、21日（金）の2日間、第58回全国小学校理科研究協議会愛知大会を開催し、約1000人の参加がありました。

初日は岡谷鋼機名古屋公会堂で総会、研究全体会、記念講演を実施しました。総会では愛知大会の研究主題「問題解決の道筋を構想し、自然の事物・現象をより深く理解する子どもの育成」について基調提案を行いました。この提案を受け、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 有本淳先生から指導講話をいただきました。

最終日は名古屋市立なごや小学校、瑞穂小学校、船方小学校の3会場で公開授業と学年別分科会、授業分科会、全体会での研究提案を行いました。各会場では、何をするのか、何を育てたいのかを大切にしたい問題解決を基軸とした学びと、理科だからこそ味わえる幸福感を大切にしたい子ども中心の学びについてもお示しいただいたことは、今後の授業のあり方を考える上でたいへん意義深い提案となりました。また、各都道府県からの研究実践の報告と協議も行われ、各地域で研究が力強く進められていることを感じる事ができました。

本会を開催するにあたり、公益社団法人 日本理科教育振興協会 大久保会長からのご祝辞を賜るとともに、開発教材コンテストを始め大会運営において、多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。



第13回科学の甲子園ジュニア全国大会が開催されました

本年は、兵庫県立武道館にて開催されました。

開催期間は、令和7年12月12日（金）から12月14日（日）で、予選となる都道府県大会には27,474人の生徒がエントリーされ、これまで以上に盛り上がった大会となりました。

総合成績第2位の神奈川県代表チームに、（公社）日本理科教育振興協会賞が授与されました。その他、理振協会幹事企業各社の賞も授与されました。

総合成績 第2位 日本理科教育振興協会賞	神奈川県代表チーム
筆記競技 第2位 内田洋行賞	東京都代表チーム
実技競技② 第1位 SHIMADZU 賞	千葉県代表チーム
実技競技② 第2位 ケニス賞	愛知県代表チーム
フレッシュマン応援・ナリカ賞	京都府代表チーム



令和8年度 理科教育設備整備予算増に向けた活動

文部科学省への要望活動

令和7年12月度に、公益社団法人日本理科教育振興協会の理事をはじめ、各理科団体役員と一緒に文部科学省理科教育関連部署に、理科教育充実のための要望訪問をいたしました。

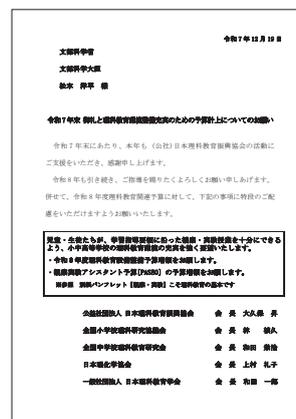
要望内容・・・令和8年度の理科教育設備整備費等補助金の増額
 消耗品費の十分な確保
 理科実験支援員の確保
 観察・実験のできる場所の確保



文部科学省 事務次官 増子 宏 様



科学技術・学術政策局長 西條 正明 様



要望文書

理科教育設備整備費等補助金事業・台帳説明会

令和7年度秋開催 理科教育設備整備費等補助事業・台帳作成説明会 実施報告

開催地	実施日	講師	参加者
東京会場 連合会館	10月27日(月)	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 真井 克子 氏	学校法人 25校 26名、教育委員会 11名、計37名
大阪会場 OMMビル	11月11日(火)	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小林 一人 氏	学校法人:14校 15名、教育委員会: 7名、計20名

説明会は、平成28年から本年までのべ81会場で実施いたしました。

これまで累計で、学校法人 1,437校、都道府県市区町村自治体 732自治体、累計参加者 3,161名 が受講されました。



10/27 東京会場 真井克子教科調査官



11/11 大阪会場 小林一人教科調査官

北海道教育厅との共同開催

北海道教育厅義務教育課様と、理科教育設備整備費等補助金事業・台帳説明会を共同開催いたしました。

開催日時：令和7年12月18日(木) 午後2時～3時30分

場 所：U-cala 内田洋行北海道支社スタジオ WEB配信

隣席者：北海道教育厅 義務教育課 田口 範人 課長
 〃 押野 たえ子 課長補佐
 〃 米田 恵美 係長
 〃 越後 英門 主任
 〃 福士 健斗 主任

講 師：文部科学省初等中等教育局

視学官 藤枝 秀樹 先生

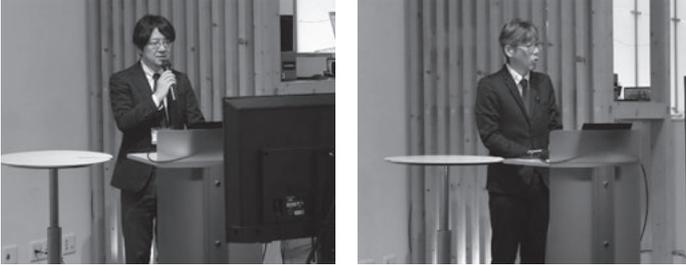
(公社)日本理科教育振興協会

常務理事 石崎 裕行

聴講者 37名(根室支庁管内自治体1市4町、
 釧路支庁管内自治体1市6町)

地区	道教委	市町村教育委員会	小中学校	計
根室市・釧路市	1	2	9	12
他市町村	----	10	15	25
計	1	12	24	37

【配信中の様子】



北海道教育庁 田口課長挨拶 講師 文部科学省 藤枝視学官

昨年に引き続き、セミナーを内田洋行U-calaスタジオからライブ配信で実施いたしました。北海道教育庁、田口課長の挨拶でスタートし、大久保会長はWEBにて挨拶をいたしました。音声映像ともに安定した環境の中で、行うことができました。

事前の質問にも対応させていただき、後日、同説明会の動画をYouTubeでも配信させていただき、復習もできるようにいたしました。

令和7年度震災復興教育支援事業

令和7年は、石川県能登半島地震被災地区と福島県帰還困難地区の小学校を対象に理科実験支援事業を実施いたしました。

理振協会幹事企業が、最新の実験機器を持ち込み実験授業を実施しました。

被災地の児童たちには、大変喜んで理科実験を体験していただきました。

実施期間 9月～12月

実施地区 石川県珠洲市1校、七尾市4校、穴水町1校、能登町2校
福島県南相馬市2校、浪江町1校

6自治体 11校 児童数453名 25時間



七尾市立中島小学校

安心安全ドキュメント活用パンフレット

観察・実験における事故を未然に防ぐために、「安心安全ドキュメント」を作成してきました。すでに全87種となっています。

すべてのドキュメントをパンフレットにまとめました。

QRコード付・スマホでも見られます。



ホームページからダウンロードしてご利用ください。

<https://www.jpse.or.jp/wp/wp-content/uploads/R7ansinanzendoc.pdf>



UCHIDA

実験・観察機器と1人1台端末を繋ぐ、インストール不要のWebアプリポータルサイト

Uchida Science Web



トップページへ

<https://apps.uchida-science.com/>

※各アプリの使い方、パスワード等は各観察・実験機器の取扱説明書をご覧ください。

..... こんな経験ありませんか?

従来のアプリ

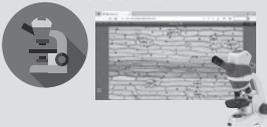


Uchida Science Web



デジタル顕微鏡

顕微鏡で観察、タブレットで共有・考察・保存・発表!



- 顕微鏡観察と同時にタブレットに表示、撮影できます。
- 試料の長さや面積などを計測できます。

電子てんびん

測定データをタブレットに集約!



- USB接続で簡単に計測データをタブレットに取り込めます。
- 化学反応による質量変化を簡単にグラフ化できます。

酸素・二酸化炭素センサー

酸素と二酸化炭素を同時測定!



- O₂とCO₂を同時に測定し、一覧で表示します。
- 測定した結果を帯グラフで表示します。

温度センサー

温度変化を可視化する!



- 温度を連続的に測定し、記録一覧で表示します。
- 測定した結果を折れ線グラフで表示します。

電流・電圧センサー

オームの法則の実験が変わる!



- ワイヤレスで電流・電圧を記録できます。
- 測定した結果を折れ線グラフで表示します。

距離センサー

記録タイマーに変わる計測器!



- 0.1秒間隔で移動距離を測定します。
- 測定した結果を折れ線グラフで表示します。

音センサー

音の波形を可視化する!



- 音の波形をリアルタイムに表示します。
- 記録停止ボタンで波形をホールドできます。

気象センサー

気温・湿度・気圧を同時測定!



- 測定した結果を折れ線グラフで表示します。
- 自由記入欄に気づいたことを書き込みます。



授業ですぐ使える圧倒的な商品数が揃っています!

内田洋行

ウチダの各種教育カタログを横断して商品検索ができます!

<https://www.edu-catalog.uchida.co.jp/library/site/public/book-lists/>



東日本営業部
〒135-0016
東京都江東区東陽2-3-25
☎03(5634)6280

北海道営業部
〒060-0031
札幌市中央区北1条東4-1-1
☎011(214)8630

西日本営業部
〒540-8520
大阪市中央区和泉町2-2-2
☎06(6920)2480

九州第1営業部
〒810-0041
福岡市中央区大名2-9-27
☎092(735)6240